河北新報
3月28日(月)
河北新報社
「東」は、未来
総合案内 (022) 211-1111
ご購読申し込みは
0120-09-3746

3週間ぶりに「ゆりあげ港朝市」が再開され、大勢の客が訪れた＝27日午前8時15分ごろ、名取市のイオンモール名取エアリ

宮城 がれき量「23年分」

推計1800万トン 撤去費 国負担へ

いつか、閖上で

名取 名物朝市が再開

名取市閖上港の「ゆりあげ港朝市」が27日、東日本大震災の発生後、初めて開かれた。港は壊滅的な被害を受け、会場を市内のイオンモール名取エアリに移して開催。名物朝市の復活を待っていた買い物客でにぎわった。

ゆりあげ港朝市協同組合の主催で、約20店が出店。仙台中央卸売市場などで仕入れた冷凍のタコやサンマ、野菜、乾物などが並んだ。被災者を元気づけようと、価格を震災前より3割ほど安くした。

組合のメンバーの多くが店や自宅を失ったが、3週間ぶりの再開にこぎ着けた。組合の桜井広行理事長は「朝市の復活で勇気を与えたかった。いつか閖上港を復興したい」と話す。朝市は今後も月1回程度、市内や近郊で開くという。（14面に関連記事）

2面 仙石線きょう一部再開
3面 福島・苦渋の自治体疎開
4面 政府対応評価せず58%
5面 応援メッセージ
8面 被災障害者に力添えを

東日本大震災関連記事

10・11面 生活関連情報
14面 大島の小中校 灯ともる
15面 介護高齢者移送に奔走
15面 漁復活へ励まし支え
16面 善意の力 生かし切れ

宮城の死者「阪神」超す

東日本大震災の死者は警察庁の27日午後9時現在のまとめで、最も多い宮城県だけで6565人に達し、1995年の阪神大震災の6434人を上回った。全体の死者は1万804人、家族が警察に届けた行方不明者は1万6244人で、計2万7048人となった。

被害が大きい東北3県のうち、宮城以外の死者は岩手が3213人、福島は968人。1都16県に設けられた約2000カ所の避難所で生活している人は、原発事故による避難者も含め約24万人に上る。

週明けの28日には、インフラ復旧や被災者支援の動きが相次ぐ。JR仙石線あおば通—小鶴新田間は、仙台駅を通過する在来線としては地震発生後、初めて運転を再開。宮城県は岩手、福島両県に続いて、被災地で仮設住宅を着工する。

死者数	
宮城	6565人
岩手	3213人
福島	968人
青森	3人
山形	1人
全国	10804人

全国の不明者数 16244人
（27日現在・各県警など調べ）

宮城県民 2次避難

16都道県 協力申し出

住まい■生活資金■教育

東日本大震災で避難所に身を寄せる宮城県民の2次避難について、全国の自治体が次々に受け入れを表明している。公営住宅への入居、ホテルや旅館での長期滞在、体育館の開放など形態はさまざまで、生活資金の支給や被災地との定期送迎など支援内容も多様だ。（2面に関連記事）

主な2次避難先と受け入れ内容は表の通り。

宮城県によると、これまでに16都道県と13市町村から申し出があり、秋田、群馬、兵庫、徳島、鳥取、山形の6県知事は県庁を訪れ、村井嘉浩知事に直接意向を伝えた。

徳島県は53世帯分の公営住宅を用意。被災地からの移動にはバスを派遣する。当面の生活資金として、1世帯に30万円を支給。家族ごとに担当者を決め、教育や雇用などの相談に応じる。

長崎県は佐世保市のハウステンボスなど県内のホテル、旅館、公的宿泊施設で受け入れる。538世帯の1700人が収容可能で、1日3食提供し、1世帯30万円の無利子貸し付けも検討中だ。

近隣では山形県が県内の28旅館組合と連携し、317施設で1万人余りの長期滞在を申し出た。一つの旅館組合が被災地域の1コミュニティーを受け入れる形を目指す。短期の2次避難では、

同県最上総合支庁管内の8市町村が武道館、公民館、学校寄宿舎などを開放し、各施設で20〜230人が寝泊まりできる。

秋田県はホテル、旅館での長期滞在を提供するほか、週1回、被災地と避難先を結ぶ無料送迎バスを運行。高齢者には健康診断を行い、児童生徒の転入などに対応する専任チームも発足させた。

宮城県は各都道県の申し出を踏まえ、事務レベルで受け入れ調整を終えた2次避難プランから順次、被災自治体に提案し、先着順で受け付けている。

宮城県の主な2次避難先と受け入れ内容の特徴(27日現在)

	避難先	収容数	特徴
宮城県提示のプラン	徳島県	53世帯	公営住宅・職員住宅への入居。最長2年。1世帯30万円の生活資金を支給
	長崎県	538世帯	ハウステンボスなどの宿泊施設に長期滞在。1世帯30万円の無利子貸与
	山形県	1745人	新庄市など最上地方8市町村の公民館などを開放
		10863人	蔵王温泉など県内のホテル、旅館317施設に長期滞在
	宮城県	2370人	大崎市鳴子スポーツセンターなど10市町村の公共施設開放
	青森県	400人	深浦町の旅館、民宿に滞在。4月30日までの短期間
各県知事が表明	秋田県	24000人	男鹿温泉など県内のホテル、旅館に長期滞在。被災地に週1回、定期送迎
	兵庫県	10000人	学校施設の開放、公営住宅などへの入居
	鳥取県	2000人	公営住宅・職員住宅への入居。生活用品30万円分を準備
	群馬県	15000人	温泉旅館などに長期滞在

福島第1

2号機、1000ミリシーベルト以上

建屋地下水たまり 排出作業の妨げに

正確な情報を

無責任な発表

再生へ 心ひとつに

おことわり

河北春秋

善意の力 生かし切れ

ボランティア 周知・調整不足が課題

相手への配慮が大切

円滑な活動のコツは

◎ボランティアの主な活動例
- 家の周囲の後片付け
- 家の中の掃除、整理整頓
- 避難所の運営
- 給水の手伝い
- 高齢者、障害者の身の回りの世話
- 病院などへの送迎
- 子どもの遊び相手

※活動内容はボランティアセンターによって異なる

（中本亮）

仙台 登録多く片付けに活躍

被災者の自宅で泥を取り除くボランティア＝23日、仙台市若林区三本塚

ボランティアセンター前で出番を待つボランティア＝25日、石巻市の石巻専修大

依頼内容とミスマッチ 気仙沼

依頼内容とのミスマッチも生じている。被災者の多くは自宅での生活再開を望み、「家のがれきの片付けを手伝ってほしい」と要望する声が高まっているが、市は「被害住宅は危険だ」として応じていない。

市企画政策課の村上功紀課長は「ニーズに即した調整の必要性を痛感し、協議会がニーズ調査を始めた。正規のボランティアセンターの開設を急ぎたい」と述べる。

安全確認、配置まで時間 石巻

石巻市はボランティアセンターを同市南境の石巻専修大に開いた。延べ約480人が登録したが、1日10人程度が出番待ちの状態となっている。依頼された活動場所の安全確認に時間がかかり、ボランティアを速やかに配置できないためだ。

センターは「広範囲の被災地を行き来する交通手段が十分に確保できていない」と説明する。

ボランティアの千葉県の高校生男子(18)は「午前9時集合と言われたが、昼まで待たされた。時間がもったいない」とこぼす。

ボランティアの活動内容が被災者に周知できていないのも課題だ。自宅が床上浸水した石巻市の年配の夫婦はボランティアが家の畳を上げる支援をしてくれることを知らず、自力で片付けた。「泥をかぶった畳は重く、2人でも動かせない。いつまでかかるのやら」と嘆いていた。

（高橋鉄男、土屋聡史）

避難所いま

七ヶ浜国際村

避難者数 284人（27日午前10時現在）
避難地区 七ヶ浜町の花渕浜、菖蒲田浜など
住所 宮城県七ヶ浜町花渕浜字大山1の1

カフェ店長らが調理

シューマイ鍋を作る（右から）吉田さんと有馬さん＝27日、宮城県七ヶ浜町の七ヶ浜国際村

東松島市大曲小

避難者数 407人
住所 東松島市大曲字寺前5の2

児童が校舎清掃に汗

津波で泥だらけになった校舎を清掃する子どもたち＝27日、東松島市の大曲小